

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	腫瘍内科専門医/がん薬物療法専門医インテンシブコース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限(期間)	6か月～2年(腫瘍内科専門医/がん薬物療法専門医に必要な経験が得られるまで)						
養成すべき人材像	がん薬物療法の複雑化と共に腫瘍内科専門医/がん薬物療法専門医へのニーズは益々高くなっているが、その充足率は未だに低く、がん拠点病院であっても高いとは言えない。臓器横断的にがん薬物療法に必要な技能、経験を取得しがん薬物専門医として地域のがん診療に貢献する腫瘍診療医となることを目標とする。						
修了要件・履修方法	必修科目の受講、参加を必須とし、さらにはがん薬物療法専門医として必要な症例報告書の作成をもって修了とする。履修方法としては、本事業参加大学の腫瘍内科、血液内科を中心とした診療科にて合計6か月以上(1診療科あたり3か月以上)の病棟、外来実習を行うことで実際のがん診療を行う。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)、腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)、SP演習、CS演習  <選択科目> 腫瘍内科研修(近畿大学、神戸大学) 血液内科研修(大阪公立大学) 臨床腫瘍免疫演習、がんゲノムエキスパートパネル演習						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)の研修施設として認定。						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	拠点病院として必要である腫瘍内科専門医/がん薬物療法専門医となるには複数の癌種に対する診療を実質的に経験する必要があるが、一部の大学病院やがんセンターを除くとその教育システムが確立されていない。本コースは専門医を育成するための実用的なコースとし、座学では無く一般的な医局による人事システムの枠組み外での中期研修によるOn the Job Trainingによる指導を中心とし、各診療施設へその技能、知識を還元することを主眼に置く。						
指導体制	各研修生に対してメンターを配置し、それぞれの研修医ががん薬物療法専門医となるにあたり不足している事項を検討することで適切なプログラムを相談の下で決定する。また評価にあってもメンターが各指導医からフィードバックを受けながらも専門医症例報告書のレビューを行う。						
修了者の進路キャリアパス	関西圏を中心にがん拠点病院で腫瘍内科医として地域のがん診療に携わる他、がんセンターや大学病院の腫瘍内科にて教育や研究に従事することで、後進の腫瘍内科医を育成する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入(養成)目標人数設定の考え方・根拠	全国のがん拠点病院にがん薬物療法専門医を最低1人ずつ追加して充足することを目標とするが、指導体制を鑑みて目標人数を年一人と設定した。今後指導体制の充実を図ることでさらなる拡充を目指す。						